

日 時：令和8年3月8日(日) 10:00～12:00

場 所：ZOOMを活用したオンライン会議

参加者：広島県（尾原氏、中島氏、坂本氏、金丸氏）、山口県（岡村氏、森尾氏、中谷氏）、鳥取県（光岡氏、保木本氏）、島根県（浅津氏）、岡山県（村上氏、笹井氏、遠藤氏、大西）、NSK（金丸副代表理事、永田理事）

1. 開 会

金丸副代表理事より、中国ブロック研修の開催協力に関する御礼、次期報酬改定に向けて意見を伺い、反映させていきたいとのご挨拶をいただきました。

※参加者より、ひと言ずつご挨拶をいただき、自己紹介を行いました。

2. 各県相談支援に関する取組みについて（意見交換）

ア. 各県相談支援体制の状況（県全体の動向、また各県協会等がどのように関与（役割）しているか？）

イ. 各県で抱えている課題等について

各県より、報告資料を基にご報告いただきました。要点は以下の通りです。

○広島県

- ・今年度はまだアドバイザー会議を開催できていないことが課題。
- ・拠点、基幹は設置済みでも進んでいない。設置後の進捗が課題。県内での動きがないことも課題。
- ・研修については未定。初任、現任、主任、サビ児管研修なども協会として検討していきたい。
→研修修了後の配置状況（配置率）を令和7年度に調査を実施。相談支援専門員は30%台。
県としても、働きやすくなる環境にしていきたい。

○山口県

- ・相談支援専門員一人当たりの業務負担が高くなっている。高齢化、人材不足も顕著。
- ・基幹整備など進んでいるものの、地域ごとのネットワーク構築が必要。
- ・協働体制のバックアップを協会としても実施していきたい。課題解決に努めたい。
- ・19市町村のうち、基幹は14市町村設置完了（R8年度に1か所設置予定）。
拠点は今年度ほぼ設置済み。1か所は令和8年度に設置予定。

○鳥取県

- ・基幹は19市町村のうち、11市町村設置済み。8市町村は令和8年度中に設置予定ではあるが、郡部は単独で設置が難しい。
- ・基幹センター連絡会を開催して、主任との連携も図っている。
- ・基幹センターの予算確保、主任の配置が難しく進んでいない背景もある。
- ・拠点は形のための設置となっており、進んでいないことが課題。

○島根県

- ・ 基幹は19市町村中、12市町村設置済み。
- ・ 令和8年度より、アドバイザー事業を再開して、未設置の市町に出向く予定。
- ・ 主任の研修を無料で実施しており、その代わり研修等への開催協力を求めている。
- ・ 県内の人材育成が課題。県全体で取り組みが必要。年1回、市町村・基幹・主任で連絡会を開催している。人材育成をテーマに取り扱う予定。
- ・ エリアで補えない研修は、協会で補填していきたい。

○岡山県

- ・ 県内、圏域ごとに協議会事務局連絡会（県の協議会との連動を図るもの）を開催。
- ・ 基幹、拠点も設置されていても、実働がうまく進んでいない。試行的に基幹・拠点の連絡会を実施。拠点は27市町村中、22市町村で設置済み。基幹は17市町村で設置済み。財源のないまま、設置となっている現状が多い。
- ・ アドバイザー事業は活発に活動している。今年度も30回越えで活動実績がある見込み。
- ・ 現任研修は、内容をリニューアルして取り組んだ。
- ・ 初任者研修後の就任率は23～24%となっている。
- ・ 主任研修は今年度実施予定であったものの、各市町村からの推薦者が出てこず、中止。
- ・ その他、各種研修（介護支援専門員との合同研修など）も実施。強度行動障害にも対応できる相談支援専門員を養成するための研修を実施した。主任研修は、今年度はフォローアップ研修を実施予定。
- ・ 課題として協働型の推進、セルフプラン率の高さがある。望まないセルフプランの解消に向けて、取り組みを行いたい。→（総社市）小規模事業所が協働体制を組むことの検討を進めている。
- ・ 相談支援専門員の人材確保は課題。高齢化、人手不足、経営難なども背景としてある。

上記の報告を踏まえて、質疑応答を行いました。

●質疑応答

- ・ 主任、基幹の質向上が人材確保につながると考えているが、各地域での質向上への取り組みを知りたい。
広島：2年前からFT養成研修を開催。法定研修以外も検討していかなければならないと感じている。
鳥取：全県で基幹センターの連絡会を開催した。今後、県庁とも協議しながら取り組みを協議予定。
山口：現状は取り組むことができていない。主任研修は2年に1回実施したが、フォローアップ研修は4年前に実施。初任者研修FTは、主任に担ってもらっている。主任の活用は市町村が担っているため、県の介入は現状無し。主任研修の中で、法定研修への協力依頼を実施している。
岡山：基幹・拠点の連絡会は実施した。各地域の取り組みの現状を把握するシートの活用を実施して、共有した。今年度は未実施の市町村には、取り組みへの意識づけを狙っている。
フォローアップ研修は財源がないため、アドバイザー事業を活用して、取り組みを検討している状況。主任フォローアップ研修の内容も工夫しながら、実施していく。

- ・ 基幹が設置できていない市町村へのアドバイザー派遣の活用はどのような形で実施しているのか。

島根：県の受託でアドバイザー事業を実施する。未設置のところは、小規模の市町村が多いため、広域設置で設置を検討していく。

- ・ 岡山県はアドバイザー派遣が活発であるが、市町村が積極的に派遣依頼をするために何が必要か。

岡山：アドバイザーの要請がある市町村は、問題意識を持っている。要望が中々来ない市町村もある。

基幹、拠点未設置の意識をしていただくために、一覧を作成して県がHPで公開している。

各市町村議会でも議題に上がるように、呼び水として活用してアドバイザー等の活用に繋がっている背景もある。

金丸氏：全国的にもアドバイザーをうまく活用している地域は、県とアドバイザーが押しかけ訪問をしている。一緒に出向くことで、現状や困りごとの把握に繋がっている。岡山県の自立支援協議会の事務局連絡会は良い取り組み。20年続けているのは凄いこと。

- ・ 相談支援専門員の高齢化、人材不足の解消に向けて、取り組んでいることはあるか。

山口：具体的なビジョンはまだ見えていない。相談支援専門員の担い手をどのように養成して、定着を図っていくかが課題。安心して地域で働くことができるように、協働体制を作るサポートをしたい。

3. 中国ブロック研修検討委員会について

ア. 令和7年度中国ブロック研修について（報告）

鳥取県（光岡氏、保木本氏より）

115名に参加いただいた。研修検討委員会では、振り返りはまだ実施できていない。清算に関しては課題を感じているため、今後検討していきたい。

清算の流れ、経費をどのように計上していくのか、事務局の負担金等、把握ができていなかった。経費の基本的なルールが明確になれば、参加費も決めやすいのではないかと思う。

→ルールを明確にすることは必要であるため、別で各県の代表者が集い、検討の場を設ける。

感想

- ・ 分科会でのグループワークで、同じ特定相談同士で悩んでいること等話し合えたことが良かった。

参加者は意識が高いため、周知する際には他県との意見交換ができることをPRできれば良い。

- ・ 第二分科会に参加して、それぞれの階層レベルでの話を聞き、自分の活動に落とし込むことができた。

- ・ 県外の相談支援専門員との交流の機会が中々ないため、良い機会となったと感じている。

- ・ グループワークが一番良かった。同じような過疎地域の相談支援専門員の話聞いて、わが地域での取り組みを検討する機会になった。グループワークの中で、自身の気づきが多かった。次年度も研修委員として協力していきたい。

- ・ 鳥取県の尽力があり、会は成功したと感じている。他県取り組みを共有できる場の重要性を感じた。

- ・インフォーマルな資源の活用、協働型の実践例を聞き、サービス以外の社会資源の活用について、参加者に持ち帰ってもらえたのではないと思う。他県のミクロ、メゾ視点の取り組みを知ることができた。

イ. 中国ブロック研修開催における課題及び次年度の企画内容について

令和8年度については、研修検討委員に分科会の企画をお願いしたい。

→7月までに方向性を決めて企画をして、代表者会議で報告を目指す。

メイン講師については、開催県が予算も把握しやすいため、企画・打診を行う。

流れ：開催県は「メイン講師」、研修検討委員は「分科会」企画を実施。

その前段階として、予算などのルールは代表者を集めて決める。

開催時期：12月を目途として実施予定。

ウ. 質疑応答等

※上記内容以外は特になし。

4. その他確認事項

- ・その他確認事項、各県からの要望、情報提供等、次回以降の議題内容について

○広島

- ・東広島で協働体制の調査を進めていく予定であるため、皆さんの地域に伺うこともあると思う。協力をお願いしたい。（尾原氏）
- ・広島県相談支援専門員協会が設立できたことは、感慨深い。行政レベルだと、異動後の引継ぎが課題。関係団体の力もあって、必要なもの・ことが管理職に伝わっていくこともある。今後ともお力添えいただきたい。（坂本氏）

○鳥取県

- ・鳥取でも協働体制の話が出ているため、相談しながら進めていきたい。良い意味で実務、経営面で支えあう仕組みを構築できたらと思う。（保木本氏）
- ・知らない間に協働体制ができていることもあるため、行政や基幹がマネジメントしていくことが必要ではないかと感じている。（光岡氏）

○岡山県

- ・100ケース以上持っている相談支援事業所がなくなった事案があった。相談支援専門員のメンタルヘルスの重要性も感じている。新しい事業所もできているが、突然事業廃止や休止といった事案も生じている。協働体制がこの解消に繋がれば良いと感じている。（村上氏）
- ・協働型ができるための仕組みづくりを進めているが、まだ事例はない。地域の相談支援体制を維持できるように仕組みづくりをしていきたい。人材育成は大きなテーマであり、課題。地域の相談支援専門員を充足させていくことが重要だと感じた。（村上氏）
- ・協働体制を組んだ後に、協働先が廃止することになったとき、80ケースの移管を求められたことがあり、困ったこともあった。リスクも検討していかなければならない。（遠藤氏）

5. 閉 会

金丸氏より

- ・ N S K 総会を 6 月 2 0 日に開催予定。
- ・ 行動指針の改定、処遇改善に関すること、就労選択支援について大平副代表から情報提供あり。
- ・ 全国研修が 1 1 月 1 3 日、1 4 日で開催予定であるため、各県で会員へ情報提供をお願いしたい。
- ・ N S K の中でも、研修や防災委員会を作ること検討しているため、動きにも注目いただきたい。

※総会では、代表者会議も併せて実施予定のため、日程確保の依頼あり。

次回：1 回目：7 月 2 6 日（日）開催予定。2 回目：3 月 7 日（日）

※対面開催の案もあったため、何かと合わせて開催を検討する。